



ソウル特別市看護協会との交流事業報告



1. 交流目的 「ホスピスや認知症患者に焦点を当てた看護ケア（高齢者介護）を視察」
2. 期 間 平成 29 年 10 月 30 日（月）～11 月 3 日（金） 5 日間
3. 訪 問 者 ソウル特別市看護協会 会長含め 12 名
4. 見 学 先 会長、理事、監査役、事業計画委員会委員、事務職員、他会員 7 名

10/30	●台東区立老人保健施設『千束』 ----- 老健における高齢者の自立支援・在宅復帰支援等	<ソウル特別市参加者施設> 延世大学看護学部 ソウル特別市西北（ソブク）病院 ソウル大学ボラメ病院
11/1	●社会福祉法人新生寿会 高齢者福祉施設ジロール麹町 ----- 認知症ケアに特化したサービス、地域との連携	江北三星（サムスン）病院 VHS 医療センター ソウル大学病院
11/2	●都立駒込病院（緩和ケア病棟・センター） ----- 緩和ケア病棟におけるケアと緩和ケアセンターとの連携	ソウル峨山（アサン）病院 順天郷大学ソウル病院国際医療センター 延世大学病院

5. まとめ

ホスピスや認知症患者に焦点を当てた看護ケア（高齢者介護）視察を目的に訪日された。韓国の平均寿命も 82.3 歳（2016 年）で世界 11 位、女性は第 3 位である。また、合計特殊出生率（女性 1 人が一生で生むことが予想される出生次数）は日本と同様 1.24 で、統計を開始した 1970 年以來最小となり、共働きと核家族化も日本同様増加傾向で社会問題となっている。今回、日本の大都市東京における高齢化や認知症への対策、がん患者の緩和ケアについて非常に興味を持って各施設で質問されていた。韓国にも日本に類似する介護保険が存在するが、加入年齢は 60 歳以降で日本介護保険の加入が 40 歳であることに大変驚かれていた。高齢者福祉施設では、認知症の方に限らず自由通所カフェとして気軽に訪れて食事が出来、症状に応じた生活をベースにケアと一体化した施設で、家族のように寄り添う職員のきめ細やかな対応と施設運営のありように関心されていた。特に利用料と介護保険政策との関連に興味を示された。韓国の先進医療としてがん治療は非常に進んでいるが、緩和・ホスピスにおいても、専門看護師、チームケア、ボランティアの導入が前提であり、日本の文化や緩和ケアのありようについて質問や確認をされていた。

報告：大橋常務理事

訪日初日記念撮影



記念品交換



台東区立台東病院『千束』



理事長 山田先生の施設説明



高齢者福祉施設『ジロール麹町』



都立駒込病院

都立駒込病院 緩和ケア病棟 屋上庭園



